

一斉学習 同時進行型

実践タイトル 確認は電子黒板で 練習問題は黒板で

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

電子黒板
コンピュータ

・集中力を高め語彙や文法事項の導入を効率よく行うとともに、多様な例を提示し表現力の向上を図る。

指導者用デジタル教科書

・教科書本文の音声聞き、繰り返し発話することで、内容を着実に身につけ、音声面の基礎力を伸ばしていく。

参考にしてほしいポイント

- ・新出単語の練習をする場面、「CHECK IT」の場面、本文の音読の場面、本文の内容説明の場面を中心に活用する。画面にタッチペンで必要なことを書き加えるなど、電子黒板の機能を効果的に活用する。
- ・電子黒板でデジタル教科書やプレゼンテーションソフトウェアなどを活用することで、単語や文法事項の反復も効率よく行えるようになる。電子黒板だけでなく、黒板と電子黒板を併用するようにした。

本時の展開(主な学習活動)

学習の流れ(分)	主な学習活動	ICT機器・教材、コンテンツ等
導入 0 10	1 あいさつをする。 2 前時までの復習をする。 ①音読の練習をする。 ・文ごとのリピートや役割読みなど、読み方を変えて何度も練習する。 ②音読の発表をする。	・電子黒板 ・指導者用デジタル教科書(英語) (写真1)
展開 10 45	3 新出構文の学習をする。 未来のことについて尋ねたり、答えたりしよう。 ①willの疑問文とその答え方を理解する。 ②ワークシートをする。 ③対話練習をする。 4 本文の内容を確認する。 ①新出語句を練習する。 ②本文を聴く。	・電子黒板 ・指導者用デジタル教科書(英語) (写真2・3)
まとめ 45 50	5 本時の自己評価をし、次時の予告を聞く。 6 あいさつをする。	



写真1: ペアワーク(読みの練習)でコミュニケーション活動



写真2: ALTと英語教師のチームティーリング



写真3: 黒板と電子黒板を目的にあわせて併用

ICT活用への児童生徒の反応等

- ・電子黒板を活用することで、注意が画面に向き、ペアワークやスキット作りにスムーズに取り組むことができるようになった。また、わからなくなった箇所について、生徒が自分で画面を操作して再確認したり、生徒から質問があった場合に、前の画面に戻って説明したりできるので、活動がしやすくなり、生徒の表現活動に対する意欲も高まった。

活用効果

評価の観点	・外国語表現の能力	具体的変容	・電子黒板の活用とあわせて、音読、暗唱、スキットやスピーチの発表に重点的に取り組んできた結果、発表にも抵抗感が薄れ、意欲的に発表できる生徒が増えてきた。
-------	-----------	-------	--

実践の手応え

- ・電子黒板を活用することで生徒の興味を引き、新出構文についての理解もスムーズであった。言語活動に意欲的に取り組む生徒が増え、話しぶりも豊かになった。今後はさらに声の大きさ、話す速度、ジェスチャーなどに気をつけて発表することについての指導をすると共に、身近な場面を設定し、生徒の実態に合わせたコミュニケーション活動を充実させていきたいと考えている。